

令和2年度第4回白石市まち・ひと・しごと創生戦略会議

開催概要

- 1 日 時 令和3年1月14日(木) 午後1時30分～午後2時30分
 2 場 所 白石市防災センター2階 会議室

委員

番号	区 分	団 体 等 名 称	役職	氏名	
1	産 業 界	白石商工会議所	会 頭	齋藤 昭	
2		白石蔵王地区 企業連絡会		猪股 政浩	
3		白 石 市 産業振興会議	代 表	佐藤 全	欠席
4	教育機関	宮 城 大 学	名誉教授	富樫 千之	
5		宮 城 県 白石高等学校	校 長	佐藤 浩	欠席
6		白 石 市 立 小中学校校長会	会 長	狩野 隆	
7	行政機関	東 北 財 務 局	総務課長	大山 佳孝	
8		宮城県大河原地方 振興事務所	地方振興部長	狩野 裕一	
9		大河原公共職業 安定所白石出張所	所 長	菅野 良恵	
10	金融機関	七 十 七 銀 行 白 石 支 店	支店長	佐藤 英明	
11		仙南信用金庫	地方創生支援業務 担当部長	伊藤 哲也	
12	労働団体	連合白石地区会議	事務局長	千葉 匠司	欠席
13	報道機関	フリーアナウンサー		船越 理香	欠席
14	学 識 経験者等	白石市歴史文化 アドバイザー		麻生 菜穂美	
15		白 石 市 議 会	議 員	佐藤 秀行	欠席
16		白石市観光協会	会 長	佐藤 善一	欠席
17		白石青年会議所	理事長	遠藤 直秀	欠席
18		み や ぎ 仙 南 農業協同組合	白石地区事業本部 地区事業本部長	大沼 和則	
19		白石市認定農業者 連絡協議会	(有)竹鶏ファーム 常務	志村 竜生	欠席

20		白石刈田地区 父母教師会連合会	会 長	平間 克治	欠席
21		子育て世代代表		佐藤 智美	
22		プランニング開 代表・アトリエ自遊 楽 校 主 宰		新田 新一郎	欠席
	白 石 市 出 席 者				
		白 石 市 長		山田 裕一	
		白 石 市 副 市 長		菊地 正昭	
		白石市総務部長		古山 光春	
		白石市総務部 地方創生対策室		毛利 春樹	
		〃		佐藤 弘子	
		〃		山田 裕介	
				松本 志畝	

配布資料

【次第】

【資料1】白石市まち・ひと・しごと創生「第2期総合戦略」（最終案） ※事前配布

【資料2】白石市まち・ひと・しごと創生「第2期総合戦略」（案）に対するパブリックコメントの結果について

【資料3】白石市まち・ひと・しごと創生「第2期総合戦略」（案）に対する委員からの意見について

3 議事概要

○白石市まち・ひと・しごと創生「第2期総合戦略」（最終案）の資料の説明を行うとともに、パブリックコメントおよびこれまで委員の皆様へ頂戴した意見に対する市の考え方について資料をご覧いただき、それらに対して委員の皆様からのご意見をいただいた。

（事務局説明内容）

白石市まち・ひと・しごと創生「第2期総合戦略」（最終案）について、計画内容や数値目標の概要、前回からの内容の変更点を中心に説明を行った。

（委員からのご意見）

佐藤智美委員：基本目標3（47ページ）の具体的施策「安心できる地域医療体制の確保」について、前々回の会議で「産婦人科が必要ではないか」という話があり、「今は県の施策として『中央で産んで地域で育てる』という流れ」と市長から説明いただいた。その状況下でも改めて産婦人科は必要だという意見

に対し、(今回の)市の考え方の回答が「体制の整備に努めます」とのことだが、具体的施策についてお伺いしたい。やはり、地域で安心して産める体制が整わなければ人は入ってこないと思う。一番近い産科まで30分以上かかるわけで、不安の中で産みたいわけではない。産科の誘致を行わないと白石に住みたい女性が増えるとは思えないので、事情は分かるが、どうにか誘致する方向で考えていただきたい。

市長：背景に、産科医は医療訴訟のリスクがとても大きく、若い先生が産科医を希望する方が圧倒的に少ない状況。国民性としてゼロリスクを求めてしまう中、日本産婦人科学会が命を最優先とするために産科医や小児科医を集約する政策があることはご理解いただきたいが、諦めているわけではない。公約でも「刈田病院で安心してお産ができる環境を整備する」ことを掲げており、刈田病院で出産ができる環境を整備するために全力を尽くし、結果を出したいと考えている。

佐藤智美委員：産科の誘致がなされるまでの間、万が一のことがあった場合に、医療体制がどのように整えられているかということ、例えば母子手帳交付時などに教えていただけるような情報網の作成もお願いしたいと思う。

市長：現在、仙台市内でお産ができる公立病院は5カ所あるが、母子手帳交付の際などに、妊婦の方がどこで出産をしたいか伺って、その病院で出産ができる体制を整えている。また、分娩までの妊婦検診は刈田病院でも行っており、不安を抱かせないような体制をしっかりとっている。今後もさらに丁寧にご説明をさせていただきたいと思う。

麻生委員：51 ページ基本目標4の数値目標「白石に誇りを持てると思う市民の割合」について、R1は27.7%、R7は60%で、かなり大きな数値を設定したと思ったが、これは決して不可能な数値ではないと思う。一方、「ふるさと納税寄附金受入額」や他の目標などは、控えめな数値目標を設定しているように思う。「白石に誇りを持てる市民の割合」の目標数値は非常に勇気づけられ、白石の可能性を感じる数値だと思うので、これに向かって皆で力を結集していけたらいいと思うし、他の部分ももう少し頑張って数値目標を高く設定したほうが良いのではないかと。

富樫会長：こういった計画では、どうしても無難な数値になりがち。より積極的な目標値を掲げて進んでいただきたいと思う。

大山委員：委員からの意見の12番にある4者連携協定で、私も白石高校で生徒の活動を拝見させていただく中で、教育は未来のための投資でとても大切だと感じる。たとえ白石市外に出ても、市外から応援したり、あるいは将来戻ってくるなどして、このKPIの目標も達成できるのではないかと。連携協定を活かし、実現するかどうかは別として、生徒が行った研究を市長に対して提言し、市長が(実現しなくとも)提言を受け入れてくれたと実感できれば、生徒たちのやる気に繋がるのではないかと。市の考え方にも「積極的に協働の取り組みを実施してまいります」と回答があるので、生徒の声を取り入れられるよう動いていただきたい。また、11番の

RESAS も含めて私どもで協力できることはさせていただきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

市長：白石市では議会を中心に中学生議会を実施させていただいている。中学生が白石市政に対してさまざまな政策提言をしていただく機会が、昨年はコロナ禍で開催が見送られたが、コロナが落ち着いたら引き続き中学生からの政策提言を積極的に取り入れていきたいと考えている。これまでも白石高校の皆さんに、ササニシキに光をあてていただいたり、さまざまな角度から本市の地域資源をさらに活性化させるご意見やご提言を賜っている。今後もそういった機会を積極的に作っていくことや、提言資料の受け取りも含めて機会を作りたいと考えているので、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げたい。

大山委員：最終報告会が今月末に予定されており、何らかの提言をまとめられたらと考えている。先生方とも相談し、できればそれを目指していきたい。

富樫会長：それぞれの研究の報告会が行われるということで、できれば市でも高校生の生の声を聴くというのもいいと思う。ぜひ検討いただきたい。

狩野隆委員：私の息子も白石高校におり、研究の様子を見ていると凄く考えているのが見受けられる。先日、米粉の飼料を使って育てた豚の肉はどうなのかと、自宅で食べ比べてみたら豚臭くなく、違いを実感した。これは米どころの白石でもできるのではという話になり、面白い考えが色々出てくるのだと思った。中学生議会でも生徒たちから中学生目線の意見がいっぱい出てくる。そういったことを少しでも取り入れていくのも良いと思う。白石に誇りを持つと思う市民の割合も 60%は達成できると思う。私自身も他市から移り住んできているが、白石はいいまちだと思う。中学生の修学旅行がコロナ禍で関東に行けなくなり、白石市内を観光した子どもたちから「白石ってこんなによかったっけ？」と言われ、自分の足元を見る機会が必要だと感じた。ある程度大人になって中学生くらいで地元を見直すことで、白石に誇りを持つことができ、一旦は市外に出ても、また戻って白石を支える力になるのではないかな。

大山委員：総合戦略の今後の進め方として、どのように決定して、どのように市民に知らせていくのか、そのプロセスを教えてください。また 5 年計画なので、今後、年度計画に落とし込む作業があるかと思うが、令和 3 年度から始まるので、既に単年度の計画も策定されているかと思う。何か具体的に行っていくことがあれば、その点について教えてください。

事務局：現在総合戦略は、総合計画の担当課と整合性を図りながら進めているところ。その実効性を高めるための組織再編も検討を進めており、これまではそれぞれの部署で行ってきた取り組みを、今後は企画政策部門で一体的に事業のローリングができるような体制を考えており、市民への進捗の公表・検証も併せて進めてまいりたい。

富樫会長：大学であれば 6 年間の計画を立て、3 年ごとに中間報告をまとめる。年度計画を立て外部評価委員会に諮り、次年度の年次計画に反映させていくこ

との繰り返し。そして5年目の時に次の計画について検討していくという流れ。総合戦略も5年間の計画の中で、目標達成のため、年次計画を立てながらストーリーを進めていくことが良いと思う。

市長：最上位計画の第6次総合計画が新年度4月1日からスタートするので、議会上程などに向け準備を行っている。この実効性を高めるための総合戦略も、しっかりとした成果を残すため、新年度から機構改革し、新たに市長直下の政策部門を担う企画政策課を設けるなど、戦略が絵にかいた餅にならないよう、検証をしながらしっかりと結果を出す努力をしてまいりたい。

富樫会長：計画と結果が分かりやすく市民に伝えられるように、よろしく願いしたい。そのほかございますか。

佐藤智美委員：シビックプライドの醸成について、志教育を実施していくということだが、そこに幼児を含めることはできないか。第一・第二幼稚園が統合され園児数も60人弱となる。園児の多い時代と比べるとかなり少なくなっていると思うが、翌年小学校に上がる6歳児がこけしや和紙などに触れるといった、白石にある伝統文化を知る取り組みはいかがか。少人数になったことを逆に強みにして、小中学校での教育に活かしていく取り組みをと思う。

市長：新年度から市立幼稚園を一園にさせていただくが、統合するだけが目的ではなく、いかに充実した幼児教育の環境をつくるかということが重要なことだと思う。佐藤委員からのご意見も重要だと思うので、園児の年齢によってできることを教育長とも相談しながら、前向きに今後検討させていただきたい。

富樫会長：目標数値に出生数が150人となっているが、幼稚園などのキャパとしては十分ということでの数値目標か。

市長：人口減少に歯止めをかけるためには、出生数をなんとか伸ばしていくことは非常に大きな課題。これまでも子どもを預けて仕事をしたいお母さんは多くいるが、0歳児を受け入れる保育園も保育士を確保するのが難しい状況で、新年度から公設民営で新たな保育園ができ、受入態勢が拡充される。新年度は待機児童ゼロとなることは間違いなく、子どもが沢山生まれても子どもを受け入れる環境が十分整ってきている。あとは、安心して産んでもらえるような政策を推進していきたい。

富樫会長：白石の場合、政策の点と点が結びついてきている印象。今後子どもや父母が安心して暮らせる状況を作っていただきたい。それから、スマートインターも賑わいなどに関連するが、道の駅などを作ってもそこに魅力がないとリピートしないことになる。色々なものと結びつくと思うが、村田の道の駅の例など、さまざまなアイデアを取り入れ、知恵を出し合って進んでいって欲しい。

そのほかご意見ございますか。では以上で事務局へお返しする。

(閉会にあたってご挨拶)

富樫会長より

せっかくいい意見が沢山出てるので、計画がしっかりと実行できるよう、そして、結果が目に見える形で市民の皆さんに提示していただきたい。このようなコロナ禍の中、今までの常識が通用しない状況となっているので、前例にとられない施策を進めていただきたいと思う。期待している。

市長より

改めまして、コロナ禍において、会長はじめ委員の皆様にも熱心に様々な角度から貴重なご意見・ご提言をいただき、心から感謝申し上げます。またパブリックコメントで市民の皆様からいただいた貴重なご意見も、しっかりと活かしてまいりたい。令和7年度までの5年間、さまざまな市政課題を先送りすることなく、持続可能なまちであり続けるために、市民の皆様と力を合わせて新しい時代のまちづくりに積極果敢にチャレンジしてまいりたい。皆様の市行政全般に対する更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

これまでの会議、大変タイトな中、またコロナ禍の中での皆様のご尽力に、改めて心から感謝を申し上げます。

(以上で閉会)